

(議事の要旨)

開始 14時13分

[西田委員長]

ただいまから、平成25年度第4回教育委員会定例会を開会いたします。

[西田委員長]

本日の会議録署名は、濱屋委員にお願いいたします。

本日の案件は、議案2件、報告事項3件です。

なお、議案第18号は公開しない会議とし、会議の最後に審議したいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[西田委員長]

異議なしと認め、議案第18号は会議規則第12条により公開しない会議として、会議の最後に審議します。

それでは議事に入ります。議案第17号・教育委員会職員人事の専決処分について、事務局より提案理由の説明をお願いします。

○議案第17号 教育委員会職員人事の専決処分について

[松本庶務課長事務取扱]

議案第17号・教育委員会職員人事の専決処分について、でございます。

提案理由につきましては、教育委員会職員に対する人事異動に伴う人事発令について、教育委員会に諮る時間的余裕がありませんでした。そのため、教育長専決により人事発令を行いましたので、報告し承認を求めるものでございます。

2ページをお開きいただきたいと思います。

平成25年7月1日付発令、1名。

職層名、職務名、氏名等につきましては記載のとおりでございます。

説明につきましては以上でございます。ご審議のほどよろしく申し上げます。

[西田委員長]

事務局からの説明が終了いたしました。ご質問ございましたらお願いします。高木委員。

[高木委員]

現職務と新職務で仕事の中身が違うような印象を受けるのですが、異動の場面では職務に必要な技術、技能の有無や習得など、どのような考え方になっているのかご説明いただければと思います。

[松本庶務課長事務取扱]

今回異動の職員は、元々給食調理員でございました。この職員は事務職員への任用替を希望しておりまして、任用替試験の3次試験として、市長部局に配属をされていたところでございます。その関係で、職務名が変わっております。

[西田委員長]

ほかにご質問はございませんか。

[西田委員長]

ないようですので、ご意見を伺います。

[西田委員長]

ご意見もないようですので、ご質問、ご意見はこれにて終結いたします。

お諮りします。教育委員会職員人事の専決処分について、を原案のとおり承認することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[西田委員長]

異議なしと認めます。議案第17号は原案のとおり承認されました。

[西田委員長]

報告事項に入ります。報告事項第6号・平成25年第2回日野市議会定例会の報告、について事務局より報告をお願いいたします。

○報告事項第6号 平成25年第2回日野市議会定例会の報告

[松本庶務課長事務取扱]

報告事項第6号・平成25年第2回日野市議会定例会の報告、でございます。

8ページをお開きいただきたいと思っております。

平成25年第2回日野市議会定例会の報告。

1. 会期、6月3日月曜日から6月20日木曜日の18日間で行いました。
2. 一般質問でございますが、質問者23名、うち教育委員会関係につきましては7名で行いました。質問件数34件、うち教育委員会関係につきましては8件で行いました。なお、教育委員会関係の一般質問等要旨につきましては、別表1、9ページから13ページに記載のとおりでございます。

3. 議案でございます。市長提出議案が21件、議員提出議案が5件、うち教育委員会に関するものは2件ございました。

(1) 平成25年度日野市一般会計補正予算(第2号)、こちらについては可決されております。補正総額、歳入歳出で一般会計につきましては1億2831万円、うち教育費が1940万8千円。予算総額が539億3879万7千円、うち教育費が55億5149万1千円でございます。

教育費の内訳につきましては、別表2、14ページに記載のとおりでございます。

(2) 日野市教育委員会委員の任命について、こちらについては同意をいただいております。

4. 請願でございます。教育委員会に関するものは特になしでした。

説明につきましては以上です。よろしくどうぞお願いいたします。

[西田委員長]

事務局からの報告が終了いたしました。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします、岡本委員。

[岡本委員]

予算の関連でお聞きします。日本では、教育投資の位置付けが世界的に見ても低いというような報告もあります。これは、数字の見方やカテゴリー分けの違いなどの要因もあるとは思いますが、このような状況の中、日野市では教育費をどの程度投入しているのか、ということです。測定の方法は色々あるかと思いますが、一般的な対比として、例えば三多摩、都内といった地域と比べて見た場合、日野市の教育費はどのくらいのレベルなのかということをお教えいただきたいと思っております。

[松本庶務課長事務取扱]

教育費の予算ということでご質問をいただきました。平成24年度の教育費の予算については、26市の状況を調査したものがございます。それによりますと、児童生徒1人当たりの金額としましては、26市のほぼ平均レベルにあると思っております。また、人口が同規模の立川市あるいは小平市と比べましても、ほぼ同等のレベルにあります。

[岡本委員]

もう1点、9ページの質問の答弁の内容のうち、特に理科教育についてでございます。私達も、教育委員会の訪問等の際、現場からこちらに記載されているようなことを伺っておりますし、また、大学や企業もいろいろと支援してくださっています。昨年、首都大学東京と協定を結びまして、市内の優れた技術を持つ企業も含め、産学公連携という協定でありますけれども、日野市の工業都市としての位置付けがより明確になったのだと思っております。そういった意味で、市内の小中学校における理科教育には大変注目しております。

今後、理科教育の推進について、こういった協定等も含めてどのようにお考えなのか、あるいは理科教育についてはもう十分なので次のターゲットをという考え方もかもしれませんが、お聞かせ願いたいと思っております。

[大野教育部参事]

こちらの答弁に示しましたように、今後も日野市における自然環境、ICT機器などを活用しまして、また、近隣の大学や企業等との連携、協力をさらに推進し、子どもたちに理科ないしはものづくりの興味関心が高まるようなことを授業の中でも、あるいは授業の教科外活動としても、どのように可能かといったところを迫り、できる限り推進を図ってまいりたいと思っております。

[西田委員長]

ほかにご質問、ご意見はございますか。

[西田委員長]

ないようですので、報告事項第6号を終了します。

[西田委員長]

報告事項第7号・要綱の制定及び改廃の報告（平成25年4月～6月）、について事務局より報告をお願いいたします。

○報告事項第7号 要綱の制定及び改廃の報告（平成25年4月～6月）

[松本庶務課長事務取扱]

報告事項第7号・要綱の制定及び改廃の報告（平成25年4月～6月）、でございます。
16ページをお開きいただきたいと思います。

要綱制定改廃一覧（平成25年4月～6月）。

要綱の名称、適用日、制定・改廃の内容につきましては、記載のとおりでございます。
説明につきましては以上でございます。よろしくどうぞお願いいたします。

[西田委員長]

事務局からの報告が終了いたしました。ご質問、ご意見がございましたらお願いします。
高木委員。

[高木委員]

今、報告事項ということで報告をいただいたわけですが、要綱の制定、改正等については、そのつど審議、確認をされてきて、ここでまとめて報告をされたという理解でよろしいですか。

[松本庶務課長事務取扱]

要綱の制定、改廃については教育委員会においては審議をしておりません。教育長の決裁をもって行ってございまして、それを四半期ごとにまとめて報告をさせていただいているということでございます。

[高木委員]

では、教育長の専決事項として処理されてきたということによろしいですか。

[松本庶務課長事務取扱]

はい。教育長に委任されている事項として、専決しております。

[高木委員]

わかりました。

[西田委員長]

ほかにございませんか。

[西田委員長]

なければ報告事項第7号を終了いたします。

[西田委員長]

報告事項第8号・平成24年度学校評価の結果報告、について事務局より報告をお願いいたします。

○報告事項第8号 平成24年度学校評価の結果報告

[島川統括指導主事]

報告事項第8号・平成24年度学校評価の結果報告、でございます。

18ページをお開きください。

日野市における学校評価でございます。

まず1番、学校評価の実施についてでございますが、7番にお示した学校教育法、学校教育法施行規則、学校評価ガイドライン等を基に実施しているものでございます。

2番、日野市における学校評価の特色として、市の重点施策である「ICT活用教育の

充実」「特別支援教育の充実」「幼保少中連携教育の充実」「生活指導の充実」の4本柱並びに学校の教育目標に合わせ、知・徳・体の3項目、その他学校で設定した1項目、合計領域数8項目以内という形で評価の重点化を図り実施しているところでございます。

3番の実施方法でございます。流れについてご説明させていただきます。

まず4月に学校経営重点計画を策定いたします。この計画に従って教育活動を展開し、11月、12月を迎え、児童・生徒へのアンケート、保護者・地域住民へのアンケート等を実施し評価材料といたします。あわせて学校評議員、学校運営協議会に説明をし、ご意見をいただくものでございます。それらを材料といたしまして学校評価を行っております。なお、3月には学校評価結果を報告、そして公表をしているところでございます。

4番、学校評価の意義でございますが、学校評価は学校改善を目的に実施するものでございます。また、学校評価は、学校や保護者、地域住民等に学校の現状と課題や思いを共有するとともに、学校が目指す方向性を共有し、よりよい学校へと導くために参画意識を高めるということでコミュニケーションを豊かにすることを目指すものでございます。

5番、教育委員会の役割でございます。教育委員会では各学校の評価報告から、教育委員会としての協力や援助、課題解決に向けた支援策につなげているところでございます。

6番の平成24年度学校評価のまとめに移ります。まずはじめに、次ページ以降の資料についてご説明をさせていただきます。

次ページ以降の資料につきましては学校から提出されました学校評価結果の一覧をまとめなおしたものでございます。今回は4つの重点施策に絞ってそれぞれまとめたものでございます。日野市の学校評価でございますが、領域ごとに中期経営目標、短期経営目標をもとに、具体的方策を学校で決定し、目標達成に向けた取組を進めてまいります。そしてその具体的な評価でございますが、主に大人が目標達成するための行動を4段階で表記した取組指標、それから、主に児童・生徒の変容や意識の高まりを4段階で表記した成果指標を設定し実施しているところでございます。

学校評価は、それぞれの学校は自校の改善を目的に実施しておりますので、経営目標の内容や評価指標等の基準は学校ごとに定めることになっております。そのため、一概に学校間の比較をすることは難しいところでございます。なお、取組指標と成果指標でございますが、4段階の2の段階を現状として学校の実態に合わせて指標を設定しているところでございます。

それでは、具体的に市の4つの重点施策について概括的なまとめをさせていただきます。

1つ目、ICT活用教育の充実でございます。ほとんどの学校が計画どおりにICTを活用した授業を実施しております。充実した授業を展開していくために今後もメディアコーディネーターの効果的な活用が望まれているところでございます。教師が授業でICTを活用することは充実してまいりましたが、児童・生徒用のパソコンがパソコン室のものだけという状況のために、週1回程度の使用に限られるということもあり、授業における児童・生徒の活用については課題となっているところでございます。

2番、特別支援教育の充実でございます。幼稚園、小学校、中学校ともに特別支援教育を充実させる体制が整ってきております。今後は、個々の児童・生徒の実態、状況というものを的確に把握した上で、より一層、個に応じた支援の質を高めていくことを進

めてまいりたいと考えております。さらに24年度は個への配慮を教室全体に広げる授業の中での特別支援教育の充実に取り組んでいる学校もございました。

3番、幼保小中連携教育の充実でございます。全ての学校で教員同士の交流や授業交流などが行われたところがございます。より質の高い交流になっていくことを目指して、事前、事後の協議の充実を一層働きかけてまいりたいと考えております。また、子ども同士の積極的な交流を進め、連携を生かした特色ある学校づくりにつなげ、日野市の連携教育の充実を図ってまいります。

4番、生活指導の充実でございます。規範意識の醸成という部分では非常に成果の上が出てきているところがございます。これは各学校とも学校全体で取り組んだということが成果につながっていると考えております。また、問題行動への対応にとどまらず、言語環境や道徳なども力を入れて、豊かな心の育成を通した予防・開発的な取組に力を入れている学校もございます。また、中学校においては、生徒会活動等の充実により、生徒が自主的に行動できる生活指導というところまで高めていきたいと考えております。

以上でございます。

[西田委員長]

事務局からの報告が終了いたしました。ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

岡本委員。

[岡本委員]

ただ今のご説明を伺い、各学校が特色ある教育を推進していくということで、成果が上がっていると感じます。1点、うまく理解できていないところがあるのですが、今のお話のように、この評価はあくまでも学校が行っていると理解しています。各学校が目標を掲げて、自分たちの特色ある教育を目指す、そして評価も自分たちがする、こういうシステムかと思えます。各学校の年度における重点計画についての文章を読ませていただくと、「教育活動の目標達成にむけて、本校教職員が常に心がけること」を掲げ、今、問題が起こりつつあることに対して、予防的あるいは先手を打つという観点から担当の先生の心構えまでも書いてある学校もあれば、フォーマットにしたがって、単に1枚にまとめられている学校まで様々です。

気がかりなのは、新年度になって、5月6月になっても目標、計画が出てこない学校もあることなのですが、システムに問題があってこういった対応になっているのか、あるいは、それもまた各学校独自の考え方だから、特段、年度当初に計画を明確に発表しなくてもいいということなのかということです。私も、学校訪問のときにはなるべく校長先生から当年度の目標、計画等をお聞きするようにしていますが、それをよりわかりやすく市民の方にお知らせできるような仕組みはできないものか、あるいは既に実施されている、検討されているということもあるかもしれませんが、そのあたりの方向性についてお聞かせ願いたいと思います。

[島川統括指導主事]

学校経営重点計画の公表でございますが、3番の資料のところに位置付けもありますとおり、4月から5月にかけて全学校に公表をお願いしているところがございます。今、岡本委員からご指摘がございましたように、発表時期、発表方法、内容について、学校ごと

に全てが同じ内容、同じような経路で発表しているという実態ではないということは当然あります。今後は、保護者のみでなく広く地域の方もご覧になれるホームページを中心に、一層の充実を図るとともに、発表の時期もなるべく早く、きちんと決められた時期に出るように、それから、内容についてもよりわかりやすいものにしていくように、学校への働きかけを強めてまいりたいと思います。

もう1点、方法としましては、対象を保護者に限るということになりすけれども、学校では保護者会、説明会等を年度当初に実施して、保護者向けにその年の学校経営の重点については説明をさせていただいているところでございます。とは申しまして、先ほど申しましたとおり、ホームページが学校の顔になるところでございますので、こちらも一層の充実を図ってまいりたいと思います。

[岡本委員]

よくわかりました。今、前段のほうでおっしゃった保護者のみではないと、これは非常に大事なキーワードだと思います。なぜならば、十分このことはご承知だと思いますが、日野市では、公教育を家庭と地域と学校とが一体となって取り組んでおり、良い評価を受けています。ですから、今おっしゃったように、一部にだけ情報が伝わっているということではなくて、学校に関わる三者に、是非、学校の考え、特色をお知らせしていただければと思います。

[西田委員長]

ほかにご質問、ご意見はございませんか。濱屋委員。

[濱屋委員]

I C T活用教育の成果指標について考えていることをお話したいと思います。

この表を見ますと、I C T活用の成果指標が、児童が授業を分かりやすく思ったということになっていたと思います。わかりやすさというのは意欲につながりますから、とても大切な指標だと思います。ただ、I C Tの活用、使うということはそれ自体が目的ではなくて、もう一つの評価領域である学力、知との関係をもっと重視しなければいけないかなというように考えています。例えばI C Tを活用して思考や表現、判断、共有をすることでいろんな考えがわかる、そして深めることができるといったように、活用することの目的ということに照らした評価の指標というのも、今後は考えていくといいのではと思っていますが、いかがでしょうか。

[西田委員長]

ご意見とご質問、両方あわせていただきましたが、いかがでしょうか。

[島川統括指導主事]

はじめの説明でお話しさせていただきましたとおり、平成19年度から学校教育法等に基づいた形で、この学校評価を進めてきているところでございます。今、濱屋委員からお話をいただきましたとおり、学校評価の目的というのものにもう一度立ち返って、きちんと学校改善に具体的につながる場所、細かい枝にばかりに目を向けるのではなく、学校として改善の幹になる部分につながるような学校評価というものを具体的にどのようにしていったらいいのか、方法、内容、それから指標も含めて、改めて今後見直しを図ってまいりたいと考えております。

[西田委員長]

高木委員。

[高木委員]

一覧表の見方について、3点ほどご説明いただきたいと思います。

まず1点目が短期経営目標についてです。注釈の中で今年度内に達成したい目標ということで説明がされているわけですが、これは市として共通の目標なのか、あるいは学校個別で設定しているものなのか教えていただきたいと思います。

2点目は、取組指標です。大人が目標達成するための行動を4段階で表記したとありますが、「大人」の意味合いも含めてご説明いただければと思います。おそらく主に教員を指しての言葉なのかとは思いますが、何かこういった表現を使っている理由があるかと思っていますのでお願いしたいと思います。

3点目、成果指標です。これは児童・生徒の変容や意識の高まりということですが、教員または保護者側から見た認識を評価をしているのか、あくまでも生徒側からの主体的な評価なのか、考え方についてお伺いしたいと思います。

[西田委員長]

3点について質問がございましたので、続けてお願いします。

[島川統括指導主事]

まず1点目でございます。短期経営目標でございますけれども、こちらについては内容を教育委員会のほうから学校に示しているというものではございません。学校ごとに判断をして1年の目標という形で書いているところでございます。

2点目でございますが、取組指標は大人が目標達成するための行動を4段階で表記と、この大人という部分のご質問でございますが、高木委員からお話がありましたとおり、ほとんどが教員を指すものでございます。ここを大人といたしましたのは、家庭との連携等の項目を立てたときに、保護者と共に取り組む内容も含まれることが想定されるということをご考慮してでございますが、実態はこの表にありますようにほとんどが教員という状況でございますので、わかりやすいように表記も改めることを検討してまいります。

3点目でございますが、成果指標でございます。この成果指標につきましても、児童・生徒の変容あるいは意識の高まりというものを客観的に評価したいというところでございます。教師からの見方ということではなくて、数値に表れるものという形で考えている部分ですので、実態としては子どもの意識を調査し、数値資料を上げているという形が多くなっているところでございますが、あくまでも意識も含めた子どもの変容等を数値で表して成果につなげるという考えをしているところでございます。

[西田委員長]

3点についてお答えいただきました。ほかにご質問、ご意見はございますか。高木委員。

[高木委員]

この学校経営について、年度はじめにいろいろ目標を立ててPDCAサイクルをまわすということについては非常に良い方法だと思いますし、昨年度の状態を見ますと総体的にうまく進んでいるのかなとも感じています。そういった中で、先ほどの質問と意見の見解の中にも示されてきましたけれども、短期経営目標については市として共通で示している

のかと思っていました。実際は学校ごとに決めているということですが、内容を見ると大きな4本の柱についてはそれぞれが同じようなパターンになってきていて、基本的な部分に関してはそれぞれの学校がある一定の水準に達しているのかなと感じています。

4本の柱については、この制度の開始時点ではそれなりの水準を達成したいということで設定していたのかもしれませんが、現在の状況を見ると、先ほどの質問、意見等にもありましたとおり、選べる学校など日野市としての学校の特色を出し、さらなる学校の独自性や発展を目指すという目標の中では、帳票そのものをつくること自体が負荷となっている部分がありますし、また1年の中で年初に設定し、年度末に課題等の整理まで実施するという流れでは、時間的に負荷が非常にかかっていることもあるだろうということが推測できます。従って、発展的に何かもう少し次のステージを目指すのだという意味合いで、是非、仕組みについて現場の負担も含めて検証いただきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

[西田委員長]

ご意見をいただきました。ほかにございませつか。

[西田委員長]

ないようですので、報告事項第8号を終了いたします。

[西田委員長]

これより議案第18号の審議に入りますが、本件につきましては公開しない会議の中で行いますので、関係職員以外の事務局説明員は退席しても差し支えないと思いますが、異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[西田委員長]

異議なしと認めます。関係職員以外の事務局説明員は退席してください。なお、本件の終了をもって、平成25年度第4回教育委員会定例会を閉会といたします。

(関係者以外退室)

「教育委員会職員の分限休職の専決処分について」

は公開しない会議の中で審議。

[西田委員長]

以上をもちまして本日の案件はすべて終了しました。これにて平成25年度第4回教育委員会定例会を閉会いたします。

閉会 14時58分